

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成18年3月30日(2006.3.30)

【公表番号】特表2005-526041(P2005-526041A)

【公表日】平成17年9月2日(2005.9.2)

【年通号数】公開・登録公報2005-034

【出願番号】特願2003-569597(P2003-569597)

【国際特許分類】

C 0 7 C 209/48 (2006.01)

B 0 1 J 27/232 (2006.01)

B 0 1 J 27/236 (2006.01)

C 0 7 C 211/07 (2006.01)

C 0 7 C 211/21 (2006.01)

C 0 7 B 61/00 (2006.01)

【F I】

C 0 7 C 209/48

B 0 1 J 27/232 Z

B 0 1 J 27/236 Z

C 0 7 C 211/07

C 0 7 C 211/21

C 0 7 B 61/00 3 0 0

【誤訳訂正書】

【提出日】平成18年2月9日(2006.2.9)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 4 5】

触媒の変性

例1～14の触媒はラネーニッケル触媒である。

例1

炭酸カリウム2gを、蒸留水20ml中に溶解し(濃度 $c = 100\text{ g/l}$)、そしてこの溶液に、含水触媒1.4g(乾質で1g)を懸濁させ、そして室温で1時間攪拌した。この変性処理後、この懸濁液をデカンテーションし、そして触媒をエタノール20mlで三回、シクロヘキサン20mlで二回洗浄した。触媒のカリウム含有率は2.4重量%であった。

例2

炭酸カリウム3gを蒸留水20ml中に溶解し($c = 150\text{ g/l}$)、そしてこの溶液に、含水触媒1.4g(乾質1g)を懸濁させ、そして室温で1時間攪拌した。この変性処理後、この懸濁液をデカンテーションし、そして触媒をエタノール20mlで三回、シクロヘキサン20mlで二回洗浄した。触媒のカリウム含有率は、3.2重量%であった。

例3

炭酸カリウム4gを蒸留水20ml中に溶解し($c = 200\text{ g/l}$)、そしてこの溶液に含水触媒1.4g(乾質1g)を懸濁させ、そして室温で1時間攪拌した。この変性処理後、この懸濁液をデカンテーションし、そして触媒をエタノール20mlで三回、シクロヘキサン20mlで2回洗浄した。触媒のカリウム含有率は4.1重量%であった。

例 4

炭酸カリウム 8 g を蒸留水 20 ml 中に溶解し ($c = 400 \text{ g/l}$)、そしてこの溶液に含水触媒 1.4 g (乾質 1 g) を懸濁させ、そして室温で 1 時間攪拌した。この変性処理後、この懸濁液をデカンテーションし、そして触媒をエタノール 20 ml で三回、シクロヘキサン 20 ml で二回洗浄した。触媒のカリウム含有率は 4.6 重量%であった。

例 5

炭酸カリウム 3 g を蒸留水 20 ml 中に溶解し ($c = 150 \text{ g/l}$)、そしてこの溶液に含水触媒 1.4 g (乾質 1 g) を懸濁させ、そして室温で 1 時間攪拌した。この変性処理後、この懸濁液をデカンテーションした。触媒のカリウム含有率は 7.1 重量%であった。

例 6

炭酸カリウム 3 g を蒸留水 20 ml 中に溶解し ($c = 150 \text{ g/l}$)、そしてこの溶液に含水触媒 1.4 g (乾質 1 g) を懸濁させ、そして室温で 1 時間攪拌した。この変性処理後、この懸濁液を窒素雰囲気下に濾過した。触媒のカリウム含有率は 3.2 重量%であった。

例 7

炭酸カリウム 3 g を蒸留水 20 ml 中に溶解し ($c = 150 \text{ g/l}$)、そしてこの溶液に含水触媒 1.4 g (乾質 1 g) を懸濁させ、そして窒素雰囲気下に室温で 16 時間攪拌した。この変性処理後、この懸濁液をデカンテーションし、そして触媒をエタノール 20 ml で三回、シクロヘキサン 20 ml で二回洗浄した。触媒のカリウム含有率は 3.3 重量%であった。

例 8

炭酸カリウム 1.3 g を蒸留水 5 ml 中に溶解し ($c = 150 \text{ g/l}$)、そしてこの溶液に含水触媒 1.4 g (乾質 1 g) を懸濁させ、そして室温で 1 時間攪拌した。この変性処理後、この懸濁液をデカンテーションし、そして触媒をエタノール 20 ml で三回、シクロヘキサン 20 ml で二回洗浄した。触媒のカリウム含有率は 3.1 重量%であった。

例 9

炭酸カリウム 4 kg を蒸留水 28 L 中に溶解し ($c = 143 \text{ g/l}$)、そしてこの溶液に含水触媒 2 kg (乾質 1.4 kg) を懸濁させ、そして窒素雰囲気下に室温で 2 時間攪拌した。20 時間後、触媒が沈殿し、そして炭酸カリウム溶液の過剰分を減圧下に除去した。触媒を炭酸カリウム溶液の薄い層の液面下に保置した。使用の前に、この懸濁液をデカンテーションし、そして触媒をエタノール 20 ml で三回、シクロヘキサン 20 ml で二回洗浄した。触媒のカリウム含有率は 3.8 重量%であった。

例 10

炭酸カリウム 140 g を蒸留水 610 ml 中に溶解し ($c = 229 \text{ g/l}$ アルカリ金属炭酸塩溶液)、そしてこの溶液に含水触媒 300 g (乾質 210 g) を懸濁させ、そして窒素雰囲気下に室温で 2 時間攪拌した。この変性処理後、一晩で触媒が沈殿し、そして溶液の過剰分を減圧下に除去した。この変性されたラネーニッケル触媒を、窒素雰囲気下に濾過した。触媒のカリウム含有率は 3.9 重量%であった。

例 11

炭酸水素カリウム 3 g を蒸留水 20 ml 中に溶解し ($c = 150 \text{ g/l}$)、そしてこの溶液に含水触媒 1.4 g (乾質 1 g) を懸濁させ、そして室温で 1 時間攪拌した。この変性処理後、この懸濁液をデカンテーションし、そして触媒をエタノール 20 ml で三回、シクロヘキサン 20 ml で二回洗浄した。触媒のカリウム含有率は 2.3 重量%であった。

例 12

炭酸ナトリウム 3 g を蒸留水 20 ml 中に溶解し ($c = 150 \text{ g/l}$)、そしてこの溶液に含水触媒 1.4 g (乾質 1 g) を懸濁させ、そして室温で 1 時間攪拌した。この変性処理後、この懸濁液をデカンテーションし、そして触媒をエタノール 20 ml で三回、シクロヘキサン 20 ml で二回洗浄した。この触媒のナトリウム含有率は、2.4 重量%で

あった。

例 1 3

炭酸ルビジウム 3 g を蒸留水 20 ml 中に溶解し ($c = 150 \text{ g/l}$)、そしてこの溶液に含水触媒 1.4 g (乾質 1 g) を懸濁させ、そして室温で 1 時間攪拌した。この変性処理後、この懸濁液をデカンテーションし、そして触媒をエタノール 20 ml で三回、シクロヘキサン 20 ml で二回洗浄した。触媒のルビジウム含有率は 4.8 重量%であった。

例 1 4

炭酸セシウム 3 g を蒸留水 20 ml 中に溶解し ($c = 150 \text{ g/l}$ アルカリ金属炭酸塩溶液)、そしてこの溶液に含水触媒 1.4 g (乾質 1 g) を懸濁させ、そして室温で 1 時間攪拌した。この変性処理後、この懸濁液をデカンテーションし、そして触媒をエタノール 20 ml で三回、シクロヘキサン 20 ml で二回洗浄した。触媒のセシウム含有率は 5.9 重量%であった。

例 1 5

炭酸カリウム 30 g を蒸留水 200 ml 中に溶解した ($c = 150 \text{ g/l}$)。この溶液に、 SiO_2 (珪藻土) / MgO に担持させた乾燥ニッケル触媒 (セラニーズ社の粉末状 $\text{Ni} 55 / 5 \text{ TS}$) 10 g を懸濁させ、そして室温で 1 時間攪拌した。この変性処理後、この懸濁液をデカンテーションし、触媒をエタノール 20 ml で五回洗浄し、そして減圧下に乾燥した。触媒のカリウム含有率は 3 重量%であった。

例 1 6

炭酸カリウム 30 g を蒸留水 200 ml 中に溶解した ($c = 150 \text{ g/l}$)。この溶液に、珪藻土 / Al_2O_3 に担持させた乾燥ニッケル触媒 (セラニーズ社の粉末状 $\text{Ni} 62 / 15 \text{ TS}$) 10 g を懸濁させ、そして室温で 1 時間攪拌した。この変性処理後、この懸濁液をデカンテーションし、触媒をエタノール 20 ml で五回洗浄し、そして減圧下に乾燥した。触媒のカリウム含有率は 3.5 重量%であった。

例 1 7

炭酸カリウム 30 g を蒸留水 200 ml 中に溶解した ($c = 150 \text{ g/l}$)。この溶液に、珪藻土に担持させた乾燥コバルト触媒 (セラニーズ社製の粉末状 $\text{Co} 45 / 20 \text{ TS}$) 10 g を懸濁させ、そして室温で 1 時間攪拌した。この変性処理後、この懸濁液をデカンテーションし、触媒をエタノール 20 ml で五回洗浄し、そして減圧下に乾燥した。触媒のカリウム含有率は 3.3 重量%であった。

例 1 8

炭酸カリウム 30 g を蒸留水 200 ml 中に溶解した ($c = 150 \text{ g/l}$)。この溶液に、1.4 g の含水ラネーコバルト触媒 B 2112 Z を懸濁させ、そして室温で 1 時間攪拌した。この変性処理後、この懸濁液をデカンテーションし、そして触媒を窒素雰囲気下に圧濾過した。触媒のカリウム含有率は 3 重量%であった。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0046

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0046】

【表 1】

表 1： 変性触媒

例	変性剤	触媒	触媒のアルカリ金属含有率 重量%
1	炭酸カリウム	ラネーニッケル	2.4
2	炭酸カリウム	ラネーニッケル	3.2
3	炭酸カリウム	ラネーニッケル	4.1
4	炭酸カリウム	ラネーニッケル	4.6
5	炭酸カリウム	ラネーニッケル	7.1
6	炭酸カリウム	ラネーニッケル	3.2
7	炭酸カリウム	ラネーニッケル	3.3
8	炭酸カリウム	ラネーニッケル	3.1
9	炭酸カリウム	ラネーニッケル	3.8
10	炭酸カリウム	ラネーニッケル	3.9
11	炭酸水素カリウム	ラネーニッケル	2.3
12	炭酸ナトリウム	ラネーニッケル	2.4
13	炭酸ルビジウム	ラネーニッケル	4.8
14	炭酸セシウム	ラネーニッケル	5.9
15	炭酸カリウム	ニッケル	3
16	炭酸カリウム	ニッケル	3.5
17	炭酸カリウム	コバルト	3.3
18	炭酸カリウム	ラネーコバルト	3